

大学院入試心得

黄楠

今回私の日本留学における経験を皆さんに紹介させていただきます。2020年11月に亜細亜友之会外語学院に入学し、翌年の8月に早稲田大学大学院環境エネルギー研究科に合格しました。私の入試経験を後輩の皆さんの参考にしていただければと思います。

学部時代は環境関連の専攻ではありませんでしたが、今回早稲田大学のエネルギー研究科に合格しました。皆さんにお伝えしたいのは、自分の勉強した専攻に極端にこだわらないことです。確かに、中国では専攻の変更が非常に難しいですが、日本では努力次第で可能だということです。「努力より選択のほうが大事だ」というある先生の言葉が大好きです。つまりあなたの選択次第で、ある程度進学の難易度が変わる可能性はあります。志望校や希望の教授、研究科などがある場合、それに向かって努力するしかないのです。そうではない場合、自分のことを冷静に分析して、自分の長所の活かせる大学を選んだほうが近道だと思います。

日本の大学院受験の第一歩は、出願です。まず、少なくとも出願できる資格を手に入れなければなりません。日本語と英語の成績は点数にこだわらず、手元にあるなら一応出願してください。なぜなら、外国語成績の取得は時間がかかるので、早めに準備しないと出願の時期を見逃がしてしまいます。研究計画書の準備も同じで、何度も修正する必要があるので、早くやっておいたほうが楽です。また、推薦書の提出が必要な大学もあるので、事前に出身大学の教授と連絡を取っておいたほうがおすすめです。受験する前に、志望大学の希望する教授と連絡を取ってみて、本番の試験前に教授と会うことができれば、面接の時に緊張しすぎることを避けられるのではないかと思います。

A0 入試で合格したので、まず、筆記試験の代わりに書類審査でした。書類審査を通過した場合、口頭試問に参加することになります。筆記試験がないことを簡単だとは思わないでください。実は、書類審査のほうがより厳しいと思います。書類審査を通過すれば、合格難易度は大分低くなります。A0 入試の準備には、志望分野の関連知識を総合的に復習し、現時点においてその分野ではどのような課題を抱えているか、また斬新なテクノロジーが何なのかなどを把握しておく必要があります。そして自分なりの考えをまとめておくことが大切です。そうすることで、面接の時によい点数が取れる可能性が高いと思います。更に、面接などにあたっては日本語の会話能力が肝心ですから、それを伸ばす訓練を怠らないことが大切です。自分に合う入試方法を検討し考え、「筆記試験なし」イコール「合格しやすい」という点も理解しておいたほうが良いと思い

ます。

研究計画書を執筆するにあたっては、大澤先生と宮原先生から日本語の修正やいろいろなアドバイスなどをいただきましたことに感謝いたします。研究計画書の内容を簡潔にまとめ、分かりやすいように書くのは、一番大事なポイントです。もし国際会議に参加した経験や、論文集に投稿したことがあれば、ぜひ履歴書などに書いてください。

結論を申し上げれば、知識の蓄積が最も重要だということです。筆記試験の有無にかかわらず、知識が足りないと何もならないのです。新型コロナウイルス感染症の影響で、日本に来た一年目の冬期入試の時期を逃してしまいましたが、半年くらい時間をかけて専門知識を改めて復習し、過去問を繰り返し練習したおかげで合格できました。一生懸命勉強しても、必ずしも理想的な大学に受かるとは限らないのですが、努力しないと合格の可能性はさらに低くなります。

最後に、この半年間の留学生生活を振り返って、亜細亜友之会外語学院の先生方には本当に感謝しております。先生方のおかげで、右も左も分からない状態から合格に至るまで、誠にありがとうございました。

これから日本の大学院に挑戦しようとする後輩の皆さんは、日本語学校の生活を大事にして、夢を叶えられるように力を尽くしてください。